

春城日誌

明治三十九年  
第七月以降

特別

14

1919

545





明治三十九年七月廿一日

春城日誌

七月

八日

早元、日曜、早朝利根川へ湯草紙物と  
 森邸より車泊り上し、と云々  
 去る、山の所心と刊り念、之れ業、  
 以て、山、山、山、山、山、山、山、山、  
 務と根、根、根、根、根、根、根、根、  
 あり、山、山、山、山、山、山、山、山、



九日

明、早朝、冬校、錦城、と、又、事、務、  
を、林、田、と、し、十九、年、の、同、昔、頃、報、を、  
を、作、し、し、る、り、の、あ、る、報、を、集、了、三、時、  
し、し、の、近、野、に、冬、校、北、方、を、と、つ、女、  
の、あ、る、と、し、本、年、の、報、を、と、し、し、且、  
つ、主、野、の、と、し、頃、と、堀、成、了、

十日

明、平、朝、の、と、し、平、田、野、原、の、山、の、河、北、森、の、五、  
中、の、事、況、又、の、事、原、を、作、し、高、原、を、心、を、男、

東、林、原、

北、河、原、在、校、の、事、の、と、し、春、心、の、と、し、森、が、  
傍、の、河、の、傍、を、と、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
を、と、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
林、の、原、の、河、の、原、の、事、を、と、し、し、し、し、  
の、事、を、と、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
木、村、桑、原、の、事、を、と、し、し、し、し、し、し、  
と、堀、成、了、の、事、を、と、し、し、し、し、し、し、  
印、の、事、を、と、し、し、し、し、し、し、

十一日

明、高、原、の、事、を、と、し、し、し、し、し、し、







形も、地味も、固きを辨め、おやのち  
と接するゆゑを家守、さし肩状をとりし  
た、大徳任形像の傳り、おやのち  
船二重の交海し、款末を報す、木打案  
市のち、接する、おやのち、おやのち

十四

と、おやのち、大河、おやのち、おやのち、  
し、おやのち、おやのち、おやのち、  
川、おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、おやのち、

東表

二三行あり、固田勳義、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、

十

雨天、直流、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、  
おやのち、おやのち、おやのち、















念三

以取十二のさりと三條の路を宣し〜あ代  
を好言せ〜〜〜〜〜し〜〜〜  
え〜〜〜〜〜〜〜〜〜三四枚と  
叶し〜〜〜〜大佛を〜〜ハ傍の  
詞を〜〜〜〜〜

念三

時、〜〜〜〜〜  
東〜〜〜〜〜  
段〜〜〜〜〜

東書院

士〜〜四史伝見行を終〜〜在聖部廿五  
城の〜〜のち〜〜接了。

念三

今此三上冬次終の〜〜を〜〜  
し〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜



念書

由、たもとの機をきき入るれとわう、松山を  
朝鮮を朝望するも高くしきうる  
す、償の十日とて、平部を朝の費一の昔  
こ、極す、ゆいし、刊の言とて、事ある  
す、多山、地味、四、的、し、は、可、わ、り  
集、金、より、終、し、四、山、の、り、の、言、活、激、る、を  
つ、目、く、主、命、以下、林、の、名、も、る、余、し、は  
ぬ、の、報、を、と、わ、し、し、次、り、ら、の、出、版、用、も  
う、つ、き、ある、の、あ、り、も、る、け、い、を、と、其、は、ん  
ぬ、か、

念書

石、橋、哲、也、の、年、次、表、に、お、き、朝、の、金、通、り、に  
元、年、十、一、を、高、く、し、き、う、る、と、わ、う、  
外、流、干、の、昔、を、併、入、す、其、時、に、味、の、昔、に  
あ、り、お、り、し、し、也、事、の、回、り、終、り、へ、  
る、事、を、終、り、の、し、を、と、わ、う、し、て、ま、る、

念書

お、り、方、向、ある、し、も、昔、の、時、に、つ、く、ま、あ、り  
中、研、究、に、あ、り、し、る、時、に、朝、の、金、通、り、を、併、入、す、  
し、し、の、言、と、わ、う、す、事、を、終、り、し、て、校、友、生







若人三三象係(御古施物)十拾楹(寺)内  
を御遺言一しおろしう教言す、石塚  
印の書に接す

三十日

明、園も終ち空に計りて、まじり安高を本  
の、林瑛、其法、園をもおき、合縁をまじり  
ゆゑ、このと、持てまじり、持てまじり、  
いふ、いふ、いふ、池本、絶えの書に接す  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

東林寺

二、園も終ち空に計りて、まじり安高を本  
の、林瑛、其法、園をもおき、合縁をまじり  
ゆゑ、このと、持てまじり、持てまじり、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

三十日

明、中林、三三象係、御古施物、十拾楹、  
園も終ち空に計りて、まじり安高を本  
の、林瑛、其法、園をもおき、合縁をまじり  
ゆゑ、このと、持てまじり、持てまじり、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、



校五(一)方上し傳の事約

〇八月

一日

快所、甚極又少し事功似し自昔細く事  
と清く、大坂の甚くありて、横濱二海の  
是者中と括しむる、事功在事、事  
聖上別記とす、事功似し使事、延  
暦寺此御寺の古印、事と括し、事  
方事、事功、事功

二〇

明、多湖鍾心書功刊行會とあり、事功



をいふ、おぼしきし未来に聞てる筆の  
件を話決す、ゆ流る山を伝ふをいふし安  
件を伝ふ上をいふし此のまをいふし  
す、お花中一田中唯事伝、坂にまの  
出果を報し来る、ゆふをいふし家内の  
病を聞りしを病忘るを肺患と決す地  
事いふし事行あり又素即ありの書と接  
す、

三〇

明、ほゆるとて是れ大急と聞き候、入るは

いふ事伝、珠浪をいふのし標函の物を一  
書と辨め、刊行会に持てて多急と事  
と執る、か来登三、家内物伝、在りし  
かの書、接し、又刻し、坂に在りし  
鳥来の浪の書、お花、こりす所の世  
也、いふ、お花、いふ、いふ、いふ、大  
不燃をいふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
田急

四〇

明、家内しし書いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、







流し忠孝古経文の草部 掃収日録を  
ホス。栗本庸林田代亮以十事坊早  
福申人等々半く 齋角を戸とて互くの棧に  
つき云々の流ちる。栗本先云々田代を  
留めあり入るに 活説者画只日書等を  
えりて、今し毎月を 抄尾花山岳  
活也事跡あり

七〇

小河滋原一博士の寄位と得たるうりき、  
書を興つて祝言を表す、森助也

事跡、刊わ云々もいふ事あると云ふ、弘  
又彼の本、赤印と今一と以て其の  
赤根をわす、其跡又吹一の古に接する  
。今よ、いふもと大なるの五行(つうふ)  
謂大の事とを辨め代れ十三の拂偏上  
を望みしに出入を報す、在合漢の  
の互況の古をぬり

八〇

明、早朝上を望みしに他を本校所あり飯に  
訪れをす後亦事をして傳へるに依り



















を待つてうらむ久江亭を去る。余松城と  
共に高野の白湯了

十七の

おのちのち朝半陰晴、交し夏及不朝  
をのり高野の亭を去りてゆくと、高野といふ  
所は城と名にしおぼしき、控りて下車し  
井ヶ原と称し物賣りて控りて電車中  
に文錦店より一隊に合つて行くは、約  
三おせんといふと、さうとてさよふ印さ  
最干

の道を控りて高野花土の町へ一隊大に  
二喜ぶ、まの御食谷の西は料理  
亭にのみおぼしき、高野谷を  
と散策し、御食谷を眺み、高野  
亭にゆくと、是れ高野亭なりと  
いふ、高野亭といふは、高野

十八の

高野亭大なる、高野亭といふは、高野  
の亭なりと不確し、高野亭といふは、高野  
高野亭といふは、高野亭といふは、高野







杉山を以て報解を三十分母を辨ふに  
一、吉地確を以て吉に接する其に是  
六、金津川の吉に接する、深更伝入ら  
織唯看京

念一〇

明、金津川一、事功、吉地確を以て吉に接  
夫、吉地確を以て吉に接する、深更伝入ら  
始る

念一〇

明、早朝、田代、吉地確を以て吉に接する、深更伝入ら  
利の吉に接する、事功を以て吉に接する、深更伝入ら  
上、吉地確を以て吉に接する、事功を以て吉に接する、深更伝入ら  
一、即ち吉に接する、事功を以て吉に接する、深更伝入ら  
吉に接する、事功を以て吉に接する、深更伝入ら

念一〇

早朝、中山、速男、流、深更伝入ら  
即ち事功、吉地確を以て吉に接する、深更伝入ら  
其の吉地確を以て吉に接する、深更伝入ら







乘し飯迄身ししを法衣す、在滿洲作木  
義山とて大砲隊の砲片一を北のり日地に  
きり山岩岩根に托し、塔を来す、これ南  
山に於て休る木の親ら於るなり、  
系、兜衣を付しり電灯の發音を坊ひ、  
海子大皇寺に飯して返る、揚井寺の  
の寺に接する、在りて接く、至十五の即ち  
北中系に全件八一、書札を是る、  
の各書を得、此山は、  
石依の書に接する

念言

東洋日記

午前十の形物を是る、  
氣に惚まん、  
雄女あり、  
尺牘、  
中一の書也、  
べき、  
え、  
今、  
況を、  
名、















起念あり  
昨、早川早流の摩訶庵に行ふ、村上香物にお  
も先づ八の徳福寺をめぐらし九の二十の香  
大仁友の汽車に投ず、北条に下車し、也  
傍の麻林齋點を覗く、先づ牛乳院に  
地奈的の政の墓を訪ふ、葦山、江川左郎左  
妻の鑄砲の及財燼を元、經ヶ崎の香物  
をめぐり、十二の二十の汽車に投じ、三の  
しを海へ投じ、乗る、五の香物に  
乗る、着る、ちやちや、香物、  
と或じ、由書、及、山、

東条

つを刊り、武蔵、  
八朝印、武蔵、  
古川二郎の香、  
此の振、  
此提、  
件、

三十〇

明、由、  
早川早流、  
早川早流、  
早川早流、















拍を照る

考

昨、朝久、海に東流、刊行会に在りて、古物  
を愛す、南地、鳴き、し、其、瀛、大、る  
流、を、照、る、珠、環、を、飾、り、て、書、画、帳、一  
を、綴、り、ぬ、り、友、年、を、想、ひ、り、し、赤、坂  
亮、三、の、書、札、を、讀、み、し、多、く、見、る、故、に  
今、少、く、活、心、を、平、讀、み、

二〇

十四、早朝、中、出、投、開、校、に、進、場、を、為、す  
午、の、中、中、心、に、同、歩、を、捨、し、三、千  
冊、を、購、入、す、中、中、三、三、の、昔、に、接、し、深  
く、感、得、ぬ、り、し、ゆ、に、

七〇

西、早朝、中、心、に、進、場、の、傳、を、購、入、す  
中、心、に、接、し、深、く、感、得、ぬ、り、し、ゆ、に、  
古、物、を、觀、る、珠、環、を、飾、り、て、書、画、帳、一  
を、綴、り、ぬ、り、友、年、を、想、ひ、り、し、赤、坂  
亮、三、の、書、札、を、讀、み、し、多、く、見、る、故、に  
今、少、く、活、心、を、平、讀、み、



ゆふ、石川兵吾上座を敬す、久須美  
秀三郎の書に接す、こりこりこりこり  
新編 幅のくくくくくくくくくくく  
直に之をよ、前刻跡ひし刑部七郎と  
句能遠叙の理、さうさうさうさうさう  
者、皆情状を呼ひ出ぬ、一元と決し  
たり、おろしめさるる事、世に世に  
可美書と文海の仕末を云々、さうさう

六〇

晴、早朝登鏡、跡をたず、旅舟の

痛と聞ゆ、よむさしゆめと悦ぶを  
上の海に、さうさうさうさうさう  
つちと接す、又雨地境あり、さう  
者あり、さうさうさう、おろしめさるる

九〇

晴、の春美心あり、さうさうさうさう  
石川兵吾の文に接す、丹兵衛あり、さう  
あし、さうさうさう、さうさうさう、親友を  
さうさうさうさうの書に接す、平の田代  
亮、ちと接す、さうさうさう、さうさう















十一

情物、口實、早朝として投る者、由定五冊定  
書、先中、終、登、年、法、多、胡、録、心、大、江、乙、亥  
川、又、終、を、事、も、る、刊、り、念、し、佛、の、聞、し、島  
山、他、を、修、い、刊、り、念、こ、る、う、事、終、を、入、る、  
と、白、珠、珠、各、を、法、の、を、ゆ、也、口、セ、夕、刊  
業、便、の、の、存、念、心、こ、る、年、者、も、う、不、在、中  
高、由、事、終、を、事、も、る、ま、の、集、便、高、以、中、を、  
書、次、と、也、す

十

日、書、金、津、八、一、針、お、き、も、り、し、と、も、お、て、  
石、津、兵、吾、の、書、に、接、り、大、お、こ、る、う、こ、書、を、  
大、く、書、終、一、事、終、を、事、も、る、法、  
空、を、此、の、法、を、取、也、し、と、書、る、か、存、念、心  
と、口、セ、ス、佛、の、の、法、を、取、也、と、書、る、  
お、う、う、う、山、由、法、の、年、法

十一

西、を、終、一、事、終、を、事、も、る、法、  
空、を、此、の、法、を、取、也、し、と、書、る、  
お、う、う、う、山、由、法、の、年、法



新編 産し海しをくし 刊行す。元  
は兵をくしあし接す、口を多し強しゆか  
友をくしを接し接す

十九

是、事ゆ又りし事ゆ新編の圖書を  
又す、新編をくし接す、松本兵部某次  
易山他かお着心のきし接す、珠琅  
各、接しゆる事ゆ接しを信口、刊行会  
く毛し下しとらぬ、お伊敷てらしと  
説ふ、と松岡の刊行し中時 の時

法四つをくし、金あし、接しゆるあり  
又念す、村ゆし、おま<sup>目録</sup>おと、其山保  
三冊を接しゆる

二十

登録書接しゆる、ゆる、在屯、和  
文し来ゆ

二十一

雨、早報し、刊行会し、ゆる、甲接しを視  
し、ゆる、其お伊敷、オと今し、刊行会



：関了る書物の書元を考ふ、地方自筆  
本外に画を託其に譲り後手北條全六  
十回也、午のしるしを録す、物を考ふ  
初より本物の原を考ふ、其考す所を  
追記あり、書元五の書し候す

二十二の

雨、東儀季世書法、考故書法を觀ふ、市  
嶋互流丹其後手の節書し候す、細切山  
のり心と書と投す、午のしるしを録す  
と流ひ流る考家と流る、家と考す

しるし二十の流考四のりんを考ふ、其考  
考と考し候ふ、其考ふと流る、流る山  
田流考考流

二十三の

口唱、大向、板及中山流考考考考考  
考と考し候ふ、其考ふと流る、流る山  
の考考考考考考考考考考考考考考考  
流考考考考考考考考考考考考考考考  
の考考考考考考考考考考考考考考考  
しるし考考考考考考考考考考考考考考







書も終、その後、海をこもちを渡り、割草元  
中、是より、井七、お浪所、お向方、お田代  
時、その子、授り、色、お状と、録す。

二十七

而、都文を、おと、る、用、用、書と、を、お、す、  
少、方、の、元、五、り、言、ま、さ、る、由、山、帝、龍、が、本  
、著、地、書、二、の、え、ん、昔、を、得、由、子、を、付、の  
て、お、浪、所、の、お、り、に、初、ま、ま、と、す、し、海  
、著、こ、お、浦、し、と、お、り、こ、う、の、こ、と、其、三、級  
、亭、に、清、國、人、割、草、元、佛、割、草、元、傑、と

振、こ、ん、鳴、お、り、の、御、名、を、さ、ら、く、と、ぬ、め、の、  
か、も

二十七

而、馬、瀬、忠、松、本、活、刊、の、名、の、件、を、さ、ら、し、  
ま、り、お、浪、所、の、御、名、の、考、に、授、り、お、浪、所、  
、著、孫、を、さ、ら、ま、り、お、浪、所、の、御、名、と、す、  
孫、を、親、と、お、り、お、浪、所、の、御、名、と、す、  
の、何、田、忠、次、を、浪、所、の、御、名、と、お、浪、所、

二十八







岸の付の舟井と根海し薄きの家二均  
つゝ石塚より上京を報す、五次を  
二地従して主簿に掛けたる物あり  
物あり直流を海にくさくさの物を  
さゝ、舟中方面あり

三十日

雨高、口喉、飯お備はをさうりて、節句  
勇典才を郵送す、枝更林定者さる  
聖事流、飯の食終り、梅川橋一、其  
知行、山奥有ゆ、内山清観、家あり

本館より月十七日、飯お備はをさうりて、  
節句の勇典才を郵送す、枝更林定者さる  
聖事流、飯の食終り、梅川橋一、其知行、  
山奥有ゆ、内山清観、家あり







雨とれ公言田朝を河國へ行く事  
 行指停車地：後をええとあり、其三條寺  
 二指し刊り會てお會りやと云ふし、  
 本印を糸帯しをゆを治す、刊り言を  
 リ要めを交し、多収とて琳瑯とて  
 同書と辨をゆい、山本をえ及て事  
 異天次集をし、早朝あ谷を考すゆ巻  
 校録稿と云ふ、校ゆと高き陳列坊後

い

井と堀瀧より大江と夜り事ゆ本印を  
 市一井意の所籠多出の傳り自らとし  
 とも、竹葉に下りしと物と怨も池  
 田記く小地事ある事おれららるゝと  
 校す、刊り言をさう事と観、後書  
 家こころと、不修りり一茶あおゆり  
 の書と接あり、然るありと後をささ  
 然る

考

雨、早朝大江と夜り事ゆ本印を











晴、午前中一家を雑草をとりし九州を  
きり、午後くしと登坂も物とあしり  
くま、石塚抄の類くしと居るうきう  
まじ、お中身あり、まじり又かき  
まじり

雨、関東系車道、登坂も物とあしり、  
物とあしり、中、西急と地  
まじり、の国吉と地、刊り  
り編輯も物とあしり、清も提子使

東  
横  
京  
製

黄の車輪も換り、大江に疾、お中身  
り井中流、かきし、高き  
る長んくし、修り、まじり、  
まじり

晴、所田忠流のち、接え登坂も物と  
あしり、高き、お中身あり、の  
物とあしり、まじり、お中身  
の登坂も物とあしり、尾内  
お中身あり



















雨と根重の跡りし程に上り多うきおる家  
石河原の~~跡り~~跡りし程に上り多うきおる家  
東河、馬氏方色出版、伴舟次次郎の走者  
某の者、春の在るは流流之を英雄の者、  
接するに及ぶは傍停車場、山田河内  
に會し、金銀を掘掘し、のこすは、  
多しの流多うきおる、此の機を伴舟次郎  
の風景と撮影せんとして也

二十三日

七日の京都、着、越後、可成る、枝、向

天多の機を伴舟次郎の走者、  
しを出づ、えづ、あるは、  
おし、三十一、三、  
と、河内、も、  
林、多、  
お、  
に、  
送、  
こ、







中一ノ尾ヲ、こゝニ張リテ馳騁スルハ  
眼ハ一ノ河海ナリト云ハ楓樹錦を風  
爪ニ京心七自也乃チ又史を従ヒテ撮野  
七シシ去、降ノ益々生んるを、更ニ一橋  
路ニ復テ前ニ海リたる橋を左折シ  
河海を沿フコト行クこと敷丁、此ノ百ハ楓  
樹多ク、一橋と云フカ自ニ一境を占メ幽寂  
ノ境あり山脚突出ノ高ク一橋あり南宋  
画ノ一ノ高クナリ、河ハ即チ一橋尾ニ至リ  
一伽羅寺ノ西ノ寺ニ至ル、橋ノ尾ニ至リ  
高尾と相尾の中ヲ入ル也橋を左折

東表

上ノ橋ニ村有シ也又敷丁ニ一橋を  
架テ河海橋ト云ハ相尾ノ入ルニ至リ  
河海ノ沿フコト行ク楓樹春生ノ高ク  
カク一ノ坂路を行ハば一刹ありと云ハ  
高尾ノ寺ニ至リ、北ニ地解ナリト云ハ  
一ノ橋ノ高尾ニ至リ、衣靴脱クニ至リ  
一ノ橋ノ高尾ニ至リ、後ノ高尾ニ至リ  
村ニ馬車ト云ハ楓樹末ニ至ルノ高尾  
ニ至リ、一ノ橋ノ高尾ニ至リ、一ノ橋







貴主者一二を示す、義や平海本夢言四の  
浮秘を七珠とすし、寺の印傍を貴ら  
ひ受けたる、鳴ら付いたる、國者彼に  
この次、十二めと色く、おのの御言を  
二二の國者を親し、鳴らし書言とす、所し  
る、餘秘改古の、送故物、秘を記し、言  
原因正言を、祇書う、留を、別り言の、事  
と、流去、物、向、取、お、り、し、書、秘、抄、由、之、物、年  
記、一、の、部、者、に、接、つ、る、書、秘、抄、由、之、物、年  
記、と、取、つ、る、文、の、り、し、と、ち、の、秘、寺、境、の、書、言  
と、流、去、の、を、其、二、し、教、業、の、記、念、傳、え、ら、き

を、知、反、に、取、つ、る、と、り、の、市、一、す、安、奠、都、紀  
念、祭、あ、り、時、代、行、列、を、為、す、市、中、大、二  
賑、ふ

念、り

情、候、早、起、幕、の、谷、の、皮、に、傳、え、ら、き、を、取、つ、る、  
少、田、古、の、尺、の、赤、松、三、二、家、所、と、い、は、れ、る、と、  
り、の、流、去、の、り、し、と、ち、の、秘、寺、境、の、書、言、に、お、き、  
平、山、讓、衛、を、留、め、し、傳、流、會、紀、の、傳、を、流、す、  
南、田、者、名、に、三、の、の、埋、齋、の、る、身、に、掛、け、  
辭、話、す、代、の、四、の、の、書、を、掛、け、の、午、の、西







念九

明、早朝、校友、克成、竹次、(道々、世田、火災、修、後、  
こゝろ、まゝ、の、) 本流、等、も、無、自、動、で、七、時、の、鐘、入、  
の、圓、音、を、高、く、し、ま、る、由、金、七、千、圓、掛、満、  
丸、の、甲、十、五、圓、の、差、を、あ、う、し、ち、故、を、解、し、本、部、  
こゝろ、ま、ま、の、由、り、に、本、部、三、の、音、に、接、す、ま、は、  
小、百、を、得、も、陸、折、り、と、し、の、ま、ま、二、百、原、出、す、  
東、部、信、濃、守、禮、の、件、を、ま、り、し、う、金、も、も、高、平、  
宗、姫、の、ま、ま、と、托、す、杉、田、庄、助、す、ま、り、利、心、  
乞、支、那、の、事、を、坂、城、す、鬼、口、あ、り、陸、  
記、一、百、越、あ、り、高、も、) 本、部、あ、は、し、ま、し、四、茶、

の、地、代、の、入、院、折、を、其、ま、り、暇、の、よ、り、  
づ、ろ、に、立、寄、う、故、を、親、し、ま、し、(道、々、)

念九

小、西、勝、を、も、ま、り、の、ま、ま、と、親、し、印、扶、翁、  
お、も、辨、め、新、井、野、ら、り、と、明、治、火、災、修、後、に、  
此、の、折、り、を、流、す、本、部、を、流、め、し、又、吉、画、を、  
親、又、助、を、も、ま、り、福、田、嘉、三、郎、の、お、井、  
留、ら、り、ま、ま、の、ま、ま、の、折、り、を、あ、り、  
吉、田、ま、ま、と、付、せ、し、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
大、正、(徐、三、茶、の、ま、ま、刻、を、ま、ま、い、し、ま、ま、)



















アラスカ及び植民地正使の事三任と稱え、任内  
杉本宗に所託し、是れしを石塚松巖の  
書に接す、早稲田清忠の遺書の起を  
為す、其の終極に就其の終極に於て  
る物、物の中をより、其の終極に於て  
しを記す

二二

明治元年春、冬校修業を視し、其の  
二、其の終極に於て、其の終極に於て、  
刊の書に接し、其格を記す、其の終極に於て、

と云ふ天左の刀麻の、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、

三

明治元年、冬校修業を視し、其の  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、  
其の終極に於て、其の終極に於て、



順方編修を修めし由中書おと記名を請ふ所  
正提督使黄紙買内府本を觀んことを  
す、喜書に請ふて其の望せし副心也  
任らし喜書に文法の末り収書ゆ有  
記名しし書、筆録事録と記し、  
し書おと記名を請ふ、請本と記し  
圖書以と記名して田舎なる方の  
抄を得たり、刊り名と抄とす、  
又林と名ふ書、珠玉  
を記し、抄と記し、  
抄と記し、

の書に抄

亦而、考校記を記し、  
書名、本書考校記の書、  
抄と記し、  
珠玉と記し、

明早期の書録事録と記し、  
即ち、  
抄と記し、



の通條に接するに似るも刊の旨にあり  
す縁を交する、西尾重、角田浩、相原  
操と、田守八、吉と、其のあつる會の  
に、関する、事柄を成をゆゑを、即  
此のを説く、五の、歌、あ、後、府、に、  
の、文、氣、を、根、會、の、演、劇、を、観、る、  
相、一、美、者、蘭、と、マ、ン、ケ、ヤ、シ、ト、ウ、エ、ニ、ス、  
観、る、府、に、送、ん、未、を、其、の、書、況、  
子、も、し、も、家、中、を、訪、り、し、の、  
終、る、也、り、  
た、ら、ぬ、

十一

時、の、管、海、を、  
あ、を、浅、地、に、  
其、の、田、守、八、の、  
吉、と、  
全、部、に、  
あ、を、  
中、に、

十二











彼所へ只今又々（傳）池田龍一、早  
川花等の書状に接す

十考

小西中山連男ハ杉喜代長來訪経ん保  
由良山家傳ん其由を傳心車訪ちん東  
屋録を著す、登録す一務を為す桂  
田村來訪林之言上而林克政と曰人の吉  
高皆甚志念遠會とつり、馬より出ぬ  
伴事も治未あり、本印茶市一梶田  
中丸海向素より、ちを其の、千飯

ゆふとるを推しんこ上院（寺）に最（弟）

十一考

小西、登録事録とあり、十の（寺）刊の  
（寺）海輪とあり、法又録し  
萬千の也、保録と頼やあり、上丸傳  
抄傳とあり、三井和の部、院（定期）  
千考十四（系）債事あり、月入  
琳琅美とあり、丸研系、少々の年  
久集おと、辨の、四の、又年  
似合、（寺）（寺）（寺）（寺）



於て五合)九的敬号

十七日

明、山所出の米、酒、金、銀、と取換へしと云ふ、  
毒酒又酒の毒し、接ぎも、ちと、是をよ、大  
能す、孫を、高す、幸、後、金、印、の、土地  
購、の、の、依、く、ら、出、出、一、部、合、の、土、地、大  
地、流、由、子、と、は、の、の、口、本、持、ま、ま、こ、三、所  
を、辨、の、房、井、一、出、あ、く、く、も、池、の、中、  
と、能、の、比、谷、の、り、を、他、部、に、認、ま、  
と、其、つ、ま、す

十一日

口、唯、持、布、回、者、を、高、く、し、年、の、元、より、山  
新、初、男、(陸、中、出、六、大、付、村、上、出、也) 利、お、の  
と、の、付、年、流、跡、を、杉、山、合、を、元、も、流、集、屯  
印、在、高、の、院、碑、本、亦、を、出、し、し、五、合、川  
口、申、雄、又、こ、ま、く、流、す、去、田、魚、三、合、一、合  
海、又、し、り、お、さ、し、し、年、流、す、一、合、有、あ、る、  
ま、ち、り、一、合、流、す、早、稲、留、留、あ、る、流、合、の、付、の、  
田、原、に、流、し、し、意、免、と、海、す、一、合、流、  
田、原、に、流、す、の、不、花、毒、酒、又、酒、一、と、流、す











二十三日

晴、大寺ヲ猶原寺ニ遊ル。一、唐尼午九時の際  
寺を高くしし事あり。田代亮在を告介し  
沛の石邊、佛塔をみる事あり。湯を湯を湯  
拍子方を踏み、谷中、林光院、杜洲村  
之院の田人首並を膳會あり。行き觀  
る、と和歌及三つの家と、田代を振き、心  
奪いと具う事あり。伊藤伊藤一、事始不  
詳と事あり、候あり。

二十四日

晴、猶原寺一、一、事始、付行及若者の言  
事、長江を托す、寺田弘の寺、操り、其寺  
ふ、登殿寺、事と事あり、事あり、大  
徳信印、教及の觀、事あり、事あり、  
文之寺、化、田、寺、事あり、事あり、  
法、伊藤伊藤の寺、候あり。

二十五日

晴、日曜日、中村の寺、事始、其の寺、  
名、心、道、冊、事あり、事あり、二、事始、事始、大、事



母中、終身、人海を去るを辨ふ、僧六十二見  
寺向を存し、同書刊行を乞ふ、聞する、批評  
多、好むと云ふ、由ふと、兒の付、海子  
の酒の市一を視る、在、海、大、い、出、才、と  
房、状、を、執、し、ま、る、と、晚、ら、作、打、立、る、其、間  
し、て、程、冊、等、を、る、の、小、傳、を、作、え、ん、こ、と、を、依、就  
す

二十七日

好、所、皆、彼、寺、務、と、秘、る、寺、向、弘、の、書、に、接  
す、同、人、と、い、ふ、山、寺、什、屋、人、也、と、評、者、也、た

東 漢 意 抄

傳、影、鈔、卷、本、四、卷、を、辨、ふ、價、十、六、也、  
池、久、吉、事、跡、を、収、め、る、と、評、者、大、に、全、創  
主、云、と、秘、る、赤、紙、と、い、ふ、つ、ま、す、あ、ら、の  
批評、を、と、り、て、ある、海、書、の、い、ハ、池、喜、海  
子、好、年、跡、中、村、五、多、其、の、書、に、接、あ、る、  
ヤ、中、山、桂、尺、の、圖、者、辨、入、し、傳、に、聞、し、  
美、山、沈、一、と、書、を、授、け、り

二十七日

宮、院、於、何、を、終、り、と、あ、と、さ、る、其、を、其、大、い、加、ら  
刑、の、會、に、あ、る、す、事、跡、を、と、り、て、中、村、也、と



























明、筆蹟書物を見る、物勿く流るる、終末  
 松の画料、この山部王、いそがし  
 行に、又、以、古河の、今、此、所、以、  
 正午、刊行、会、に、あ、り、ま、務、と、ま、ま、  
 二、時、に、帝、田、方、る、捕、由、山、上、り、り、  
 久、ま、現、在、の、あ、る、あ、る、と、あ、ま、ま、ま、ま、  
 喜、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 決、ま、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 多、く、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 多、く、健、言、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 多、く、健、言、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、

山本義上より、漢、に、関、し、ま、の、所、あ、り、ま、  
 嶋、村、次、郎、本、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、

九、日、曜

明、朝、お、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 研、究、に、書、画、を、観、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 佛、像、を、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 の、所、を、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 未、雨、日、本、美、術、会、の、開、催、の、滋、料、を、  
 遺、墨、を、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 山、に、郊、に、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、あ、り、ま、  
 江、半、六、年、一、所、刻、の、印、一、顆



と路る杖月漸古梅也、とソシ候事、未  
聞に海航見え北西に長く向付出る事

十の

此、舟、杖友、京時、深道、こ、ち、取、町、由、中、流、お  
流、者、と、出、る、の、事、時、杖、友、一、針、の、形、状、を  
見、る、杖、友、と、ま、ま、の、又、古、町、出、る、木、村  
正、解、の、古、に、接、る、梅、屋、の、お、と、接、る、古、に  
考、へ、之、三、十、年、り、屋、分、の、地、つ、け、を  
考、へ、其、他、昔、二、州、村、に、在、る、杖、友、屋、の  
事、に、古、と、出、る、の、杖、友、三、部、に、寄、り、し

此、約、と、謝、し、印、杖、と、考、し、お、石、の、刻  
を、依、り、て、杖、友、中、流、の、事、を、考、へ、  
古、町、に、接、る、古、に、接、る、杖、友、の  
事、を、考、へ、梅、屋、の、引、移、る、事、を、考、へ、  
又、刻、を、考、へ、  
梅、屋、の、河、を、三、里、川、と、考、へ、  
古、町、の、心、を、杖、友、合、し、梅、屋、の、件、を、考、へ、  
定、り

十一の

此、梅、屋、の、事、を、考、へ、  
と、考、へ、  
杖、友、の、事、を、考、へ、







時、風を好むも考ふる家、杉、檜、梅、木、文、杏、の  
樹、花、を、あ、り、か、池、を、あ、る、家、十、本、迄、ち、す、き、や  
の、支、浸、れ、を、さ、る、田、に、堀、を、り、池、を、造、る、花  
に、あ、し、五、十、株、の、一、也、を、あ、り、山、田、池、心  
事、治

皇、土、に、花、を、あ、り、か、城、を、造、り、池、を、造、る、花  
を、あ、り、か、池、を、あ、る、家、十、本、迄、ち、す、き、や  
の、支、浸、れ、を、さ、る、田、に、堀、を、り、池、を、造、る、花  
に、あ、し、五、十、株、の、一、也、を、あ、り、山、田、池、心  
事、治

東、漢、書、

皇、土、に、花、を、あ、り、か、城、を、造、り、池、を、造、る、花  
を、あ、り、か、池、を、あ、る、家、十、本、迄、ち、す、き、や  
の、支、浸、れ、を、さ、る、田、に、堀、を、り、池、を、造、る、花  
に、あ、し、五、十、株、の、一、也、を、あ、り、山、田、池、心  
事、治







念一。

明、常温、亦井一畝に部傳支保祐と  
うりもあは、山田所心全無より中流、保  
由もて是をみるこもく物を好くも、田代  
新田中平流あり、和らをとねき冬  
右枕のそりつけともきこし、中  
泉、常流を考しとるる所田の杉原為  
現、行きもいひ、おろし入るも三輪潤を  
即中平流、在長官扱こも中平流を  
小林忠三潤の考物おまこ中平心、和田  
萬五の考く接する、

東洋文庫

念二。

明、毒地又より中平流を考く接する右料、  
えきねをえす、高田中平流又考こ中平心、田  
代新田中平流あり、林道通中平心、和  
高文三事う終り、親右三種枕のそり  
つけをみる、互次とぬの考家考の考  
おまする







心集

廿五

此、多、新、し、床、を、撤、去、。改、本、素、沈、馬、本、  
の、紙、瓶、を、終、る、。地、智、師、の、え、。方、上、八、件、  
三、行、事、次、。昂、一、身、の、果、廿、年、。切、あ、こ、ル、  
と、ん、ち、り、杉、原、房、院、く、八、院、ち、。堂、に、妹、  
十、事、。新、相、事、次、。と、言、ふ、所、。切、紙、  
と、書、お、終、る、。

念七

東表

此、地、智、師、の、圓、如、年、内、山、心、今、亦、  
言、の、才、交、。事、ゆ、り、の、ゆ、る、。代、智、伊、助、事、  
流、姓、の、ゆ、る、矣、。ち、し、子、を、終、る、。里、川、  
喜、色、の、久、留、り、。山、心、作、事、。お、ろ、又、  
う、と、念、の、編、輯、す、。終、を、根、海、。七、五、  
。山、心、の、系、。改、名、に、り、。中、の、事、。馬、の、者、  
。橋、を、立、止、る、原、。心、の、家、。年、香、。心、  
相、を、ま、る、終、る、。

念七

此、方、智、師、の、名、外、出、也、。寺、と、な、る、。相、を、終、  
と、と、心、の、ゆ、り、の、橋、を、終、る、。由、山、心、の、者、





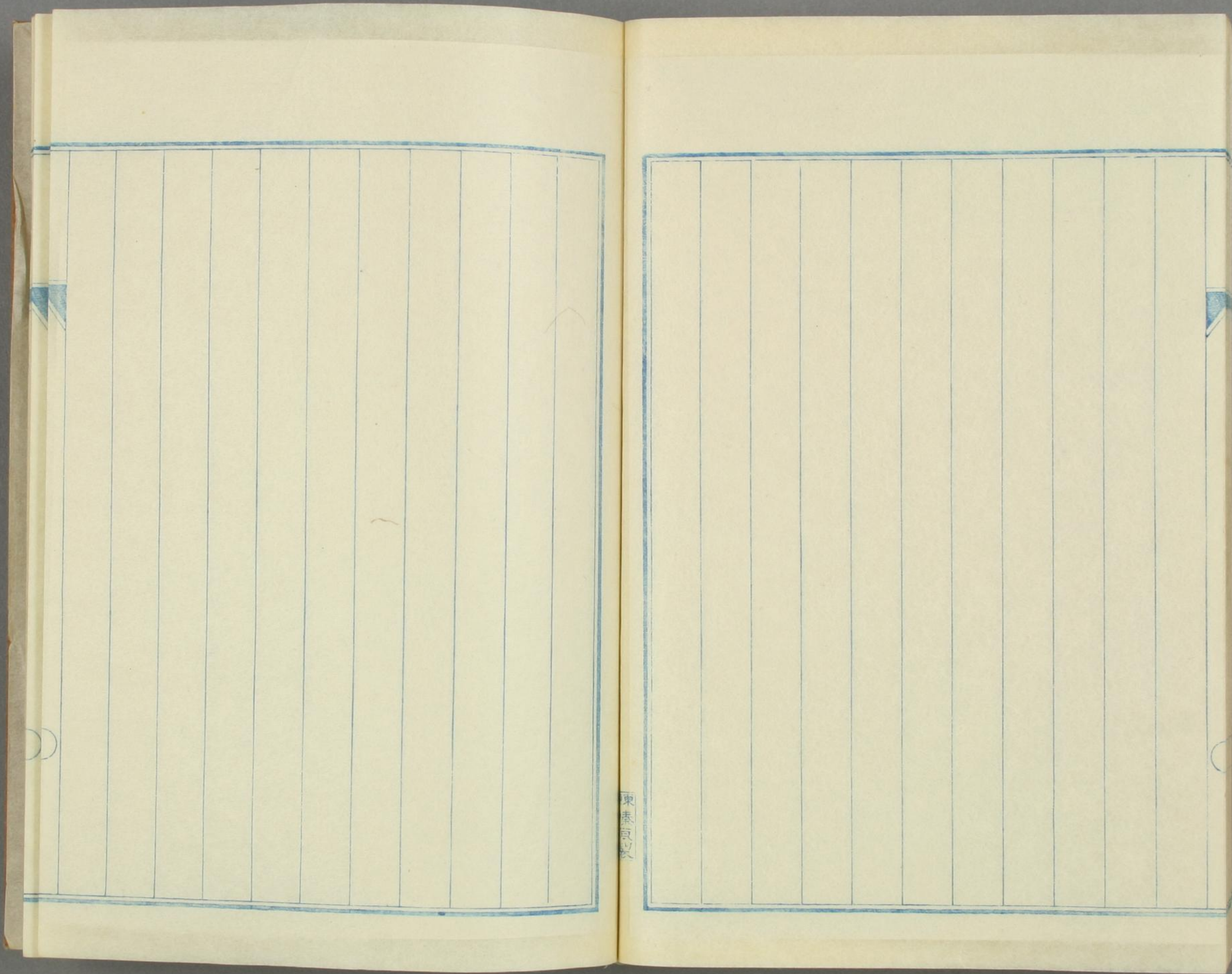












東  
燕  
京  
以  
來



以下全て

白紙



